

はだの市民が創る 男女共同社会推進会議を知っていますか？

男女がお互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる社会。そんな社会を目指して平成5年に発足した会が「はだの市民が創る男女共同社会推進会議」です。

教育、労働、地域社会、福祉など、各分野からの委員25名が中心となって次のような活動をしています。

- ・男女共同社会フォーラムの開催
- ・市民の日参加
- ・公開学習会の開催
- ・啓発活動の実施
- ・情報誌「パートナー」の発行



今年度4月に秦野市が策定した「はだの男女共同参画プラン後期行動計画」の策定には4名の委員が参画しました。これからもこの計画を推進しながら、男女共同参画社会の実現に向けて活動を続けていきます。

参画で 職場に活気 家庭にゆとり

男女共同参画週間 啓発活動を実施



6月25日(日)梅雨の晴れ間のひと時、ジャスコ秦野店において男女共同参画週間にあわせて啓発活動を実施しました。クリアホルダーにチラシとポケットティッシュを添えて650部配布しました。職場や家庭内において、常に理解と協調をモットーにして一日も早く男女共同参画社会が実現する日の遠からんことを願ってやみません。



ジャスコ秦野店で啓発活動

ジャスコ秦野店において男女共同参画週間にあわせて啓発活動を実施しました。クリアホルダーにチラシとポケットティッシュを添えて650部配布しました。職場や家庭内において、常に理解と協調をモットーにして一日も早く男女共同参画社会が実現する日の遠からんことを願ってやみません。

男女共同参画社会づくりに向けての 全国会議に参加



あいさつする 猪口大臣

6月26日(月)東京厚生年金会館で行われた「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に参加しました。今年度のテーマは「あらゆる分野における女性の参画促進」で、猪口邦子内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)の主催者あいさつに始まり、功労者等の紹介、大臣による基調講演というプログラムで進行しま

した。

続いてシンポジウムでは、子育ての分野でのボランティア活動をNPO法人化し、さらにママのためのIT講習会を実施している「新座子育てネットワーク」の活動の紹介や、女性店長が8割を占め、独自の研修・昇進制度を実施している「(株)クックチャム」の取り組み内容の紹介がありました。

子育てと就業の両立支援を考える良い機会となりました。



参加した委員 (6月26日東京厚生年金会館)

女性のための悩み相談

夫婦や家族の問題、こころや生き方、夫やパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))で悩んでいませんか。気軽にご相談ください。

***費用は無料、秘密は厳守します**

相談日 毎月第2・3・4火曜日
午前10時～12時
午後1時～3時

☎電話相談 専用電話 (83) 1812

☎面接相談 予約制

予約・問い合わせ 市民活動推進室(82)5118

相談場所 女性相談室

【市民活動サポートセンター(青少年会館内)】

*DVなど緊急の連絡は、秦野警察署生活安全課(83)0110

編集後記

空き家になったツバメの巣を、玄関に入るたびに見上げます。そして男女共同参画のことを考えます。青空飛んだら、育児ノイローゼも吹っ飛ぶのだろうね。また来年も夫婦で来てね。

男女共同参画社会をめざす情報誌

主な内容

- 🌀 パパはステキなパートナー
- 🌀 はだの男女共同社会フォーラム2006
- 🌀 はだの市民が創る男女共同社会推進会議の活動

パパはステキな パートナー

ママもパパも子どもの親です。でも家庭での子育てはママが多くを担っていませんか。子育て中のママたちは息苦しさを感じているとよくいわれます。慣れない育児で時間ばかりがとられる、家事は一向に終わらない、子どもは思うようになってくれない…。そんな時、パートナーのあなたの一言、ひとつの協力がどれだけ元気を与えてくれることでしょうか。ママもビギナーなのです。少しずつ、少しずつ、たくましいママに「なっていく」のです。パートナーの思いやりと協力で、心にうるおいと元気の素をもらって。



おめでた家族教室

安心して新しい家族を迎える準備をママだけでなくパパやその家族も参加できる子育て準備の教室。月4回、市保健福祉センターで開催。

はだのわくわくネット

産後3～5カ月までの親同士、おめでた家族教室参加者との交流、親子体操などを市保健福祉センターで開催。

お問い合わせは 市役所市民健康課 82-9604

2006. 9. 1 発行 No.26
発行 はだの市民が創る男女共同社会推進会議
事務局 秦野市役所企画部市民活動推進室市民活動支援班
秦野市桜町1-3-2 TEL0463-82-5118
FAX0463-82-6793
e-mail s-katudo@city.hadano.kanagawa.jp

はだの男女共同社会フォーラム2006

ひとひと 男と女 助けあう社会へ

介護の土俵にみんなを乗せよう

6月25日(日)午後2時から本町公民館において「はだの男女共同社会フォーラム2006」を開催しました。講師はエッセイストの羽成幸子さん、19歳から49歳までの30年の間に祖父、祖母、実父、実母、姑と5人の介護を経験され、数多くの講演や著書で、介護する側される側の両方が楽になる方法について紹介していらっしゃいます。今回は姑のキクさん人形を連れての登場です。以下お話の内容の一部を紹介いたします。



講師の羽成幸子氏と姑のキクさん(人形)

介護というのはややこしい人間関係がともなうもの、今日の私の話の中から何かヒントを見つけていただければうれしいです。

9歳、11歳、13歳、15歳、難しい時期の子供が4人いるところに、姑のキクさんが介護される人として突然やってきて、新しいリズムをつくっていくのは楽ではないことです。

今までいた部屋と同じような感じにした和室をひとつ提供したのですが、このキクさん、寝ているのが一番という考えを持っていて、散歩に誘えば、「シミができるから行きたくない」、お風呂に入ろうと言えば、「アカでは死なない」、温かいうちにご飯を食べようと言っていると、「あたしゃ冷たいのが好きだ」というように何かにつけてああ言えばこう言う。さらに便秘、おねしょの問題。キクさんを受け入れるということは、キクさんの人生を受け入れるということで、キクさんの持っている考え方、言葉、習慣、においを受け入れなければならないということ、ある意味では命がけなことなのです。

みんな土俵に上がることになります。

介護者は心の中に悪魔の部屋を持って良いのです。そしてなんとか一日一日をやり過ごす。その葛藤こそが死と向き合わなきゃならなくなってきたときに大きな力になってくれます。どんな介護でも、終わったら100点だと思ってください。

私たちは自分の人生を生きるために生まれてきた。介護というのは自分の老いのリハーサルです。だからこれからの人生一生懸命生きなくてはいけない。男だ女だなんて言ってもらえない。人間としてどう向き合うか、これから私たちはその正念場を迎えるときだと思います。

今回のお話を聞かせていただいて、男も女もない、みんな介護の土俵に上がることによって、介護者も輝いてる人生を生きることができ、さらにすみよい男女共同社会が実現するのではないかと思います。

参加者の声

今年のフォーラムには211名(男性57名、女性154名)が参加しました。終了後のアンケートに寄せられた感想をご紹介します。

自分の老後に関して考えるきっかけとなった。(50代・男性)

一人で大変さを抱え込まないで、夫や周りの人の力を借りて楽しんで乗り越えようと思う。(60代・女性)

介護される人と人間同士、ありのままをぶつけて向き合えばよいと思いました。(40代・女性)

介護を通してお互いの思いやりや考え方の違いを認識しました。(40代・女性)

自分の人生を見直す良い機会を得ました。(60代・女性)

実父の介護経験者としてまさにそのとおりと思えることが多く、今になってホッとした。(60代・男性)

自分の老いの自覚をしっかりと持ち、介護する人がしやすいように自分のことを表現したいと思います。(50代・女性)

お互いの人生を受け入れることで、両方の人生をつぶさないようにするという話にうなずきました。(50代・女性)

限られたスペースの中で限られた人間が24時間見守らなきゃならない、本当にしんどいのが家庭の中の介護なのです。

デイサービスやショートステイなど受けられるサービスは全部受ける、他の兄弟にも手紙を出してお願いし、できることで援助してもらおう。タクシーに乗せるときに人手が欲しければ歩いている人に頼み、世の中の人みんなボランティアという思い方をするといいと思います。

介護はひとりではできないものです。土俵に介護される人が上がったならば、我こそ関係者、土俵の上にみんな上がりましょう。遠くて介護はできないけれどヘルパー代は出せる人、情報集めならできる人、「なんにもできなくてごめんね」の人も、

わが町秦野の介護の現場では

認知症の人を抱える家族とボランティアの会「ひまわりの会」

認知症の人を抱える家族同士が交流を通じて認知症を正しく理解するとともに、社会への啓発をすすめています。

1985年に認知症や寝たきりの家族を介護中の方々が家族会としてスタートし、今では介護を終えた人、勉強したい人なども会員となって30名余り。市内の老人ホームなど福祉施設で各行事やデイサービスのお手伝いにも参加しています。

地域の福祉活動を支える貴重な「ひまわりの会」。今後の活躍をさらに期待いたします。

お問い合わせ
ひまわりの会会員
遠藤 (83) 0971、貝瀬 (88) 3251
または社会福祉協議会 (84) 7711